

■新春特別インタビュー

創業125周年 ハンドメイド注文紳士服

「柴田音吉洋服店」

40

激動の時代を越えてもなお変わらない、ものづくりの心



4代目 柴田音吉社長

『神戸のハイカラ文化の源流を見た』

まずは、左の古い写真をご覧いただきたい。これは昭和はじめ頃の、現在の舞子ビラ神戸。今も残る姫松のある庭園で、紳士・淑女が集まってパーティを開いている。中央に座る、黒いスーツ姿の日本

人が、2代目柴田音吉である。現在の社長の祖父に当たる。先々代は、恐らく神戸では初めてヨットを所有した日本人で、ロンドンから取り寄せたヨットを瀬戸内海で乗っていたという。そう思っつて写真を見ると、右上に写る海辺には、たくさん帆船が並んでいるのが見えるではないか！写真の外国人たち

は、それらに乗ってやって来たのだ。自慢のヨットに乗ってフランス・シエルブルの港町に集まり、ロブスターをメインにワインで乾杯するとうい、ヨーロッパのヨットマンたちの華麗なおしゃれなパーティが、昭和初期に神戸・舞子でも開かれたのではないかと推測されるーと、4代目柴田音吉社長（現）が教えてくれた。「かつてはこうして港に船が入り、ここから外国文化が発展した。まさにそれが、ハイカラ文化といわれる神戸文化なのです。神戸には、そんなハイカラ文化が育つ土壌があつたんです。」

『初代から引き継がれてきたもの』

明治期に、外国人居留地に紳士服店を開いた英国人・カペル氏に弟子入りした初代・柴田音吉は、日本人初のテラーとして独立。明治天皇のお洋服や、当時は

